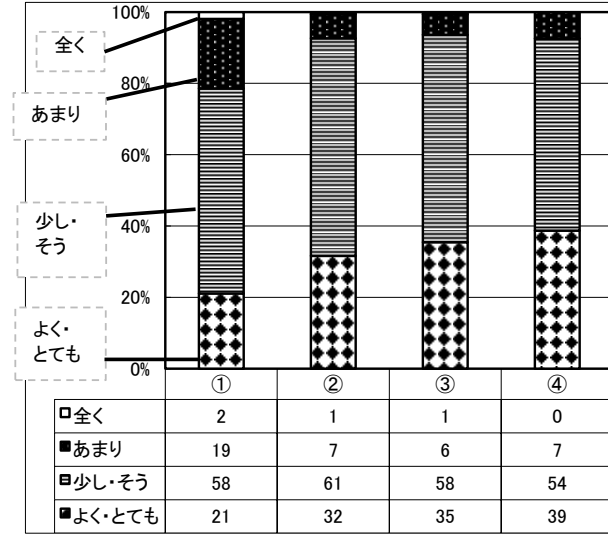


丸小を見つめて(保護者評価)

回収率: 79%

○確かな学力

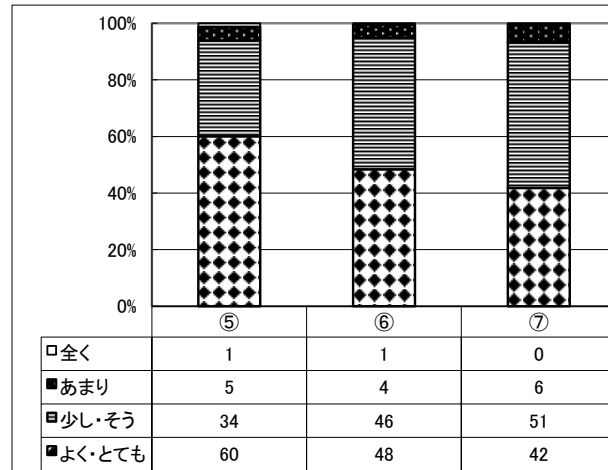


- ① 子どもは、自ら進んで学習課題を見つけ、自分の力で解決しようとしている。
- ② 子どもは、友達の話の聞いたり、自分の思ったことや考えたことを伝えたりしながら、学習に取り組んでいる。
- ③ 子どもは、発達段階に応じた系統的な学びで基礎的な学力を身につけている。
- ④ 学校は、子どもたちの学びが計画的に積み重ねられていくように、職員が一体となって取り組んでいる。

(考察)

②③④の項目については、「よく・とても」「少し・そう」が90%を超えているが、①の項目については、80%に届かない結果になっている。しかし去年の70%に比べると多少ながらも増えてきている傾向が見られる。引き続き子どもたちが主体的に学習できるような環境づくりや授業づくりに努めていく。教職員が授業の導入の工夫や振り返りの充実などに力を入れ、子どもたちが課題を見つけ学習していくよう取り組んでいきたい。

○豊かな心

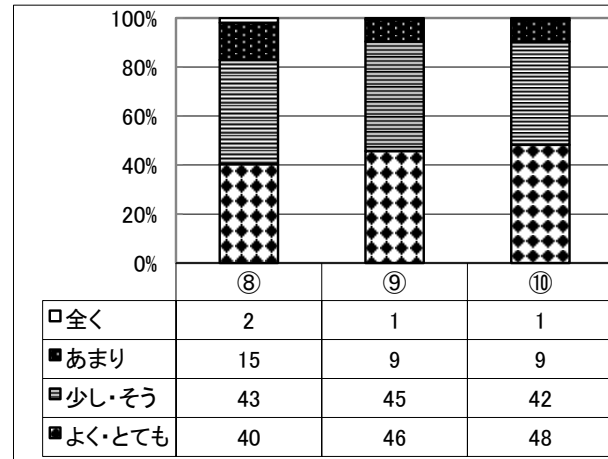


- ⑤ 子どもは、毎日楽しく登校している。
- ⑥ 子どもは、お互いに助け合い、協力し合って学習や活動をしている。
- ⑦ 学校は、子どもの学年や状況に応じて、道徳の学習を進め、人権を尊重する精神を育もうとしている。

(考察)

どの項目も昨年同様高評価であり、若干ではあるが「よく・とても」「少し・そう」と答えた割合が毎年少しずつ増えている。⑤については、感染症拡大の中、例年と同様の結果が得られたことはうれしいことであるが、安心することなく、「あまり」「全く」が0になるよう、一人一人に寄り添った支援や、だれもが安心して過ごせる学級づくり、魅力ある授業づくりをめざしていきたい。

○健やかな体

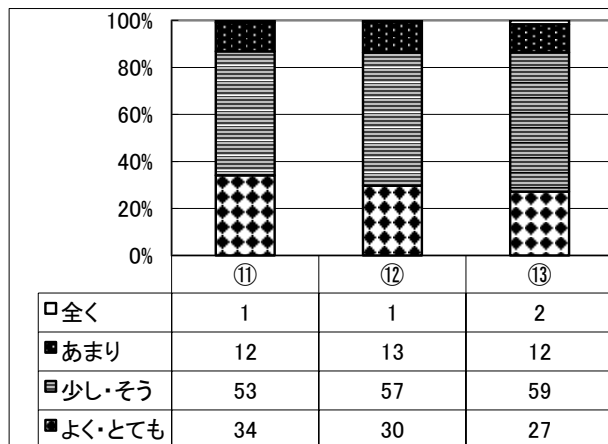


- ⑧ 子どもは、体育の授業で学習カードを用いて学習したり、外で遊んだりして、自ら進んで運動しようとしている。
- ⑨ 子どもは、健康的な生活をしようとしている。
- ⑩ 子どもは、給食時間や給食週間の食育指導、「『食』の学び」の学習により、栄養のバランスを考えながら食事をしようとしている。

(考察)

どの項目も例年同様「よく・とても」「少し・そう」が80%を超えている。⑨については、感染症拡大のため、自分の健康に目を向け意識する機会が増えたことも背景にあると考えられる。また、健康委員会から健康目標についての話が今年度もあり、「健やかな体づくり」を意識できた。今後も体育・保健での自己のめあての設定や「食」の学びを通して子どもたちの「健やかな体づくり」ができるよう取り組んでいきたい。

○児童指導

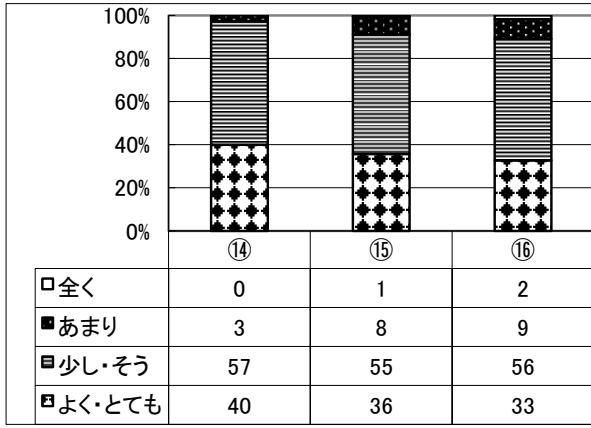


- ⑪ 子どもは、元気よく場に応じた挨拶をしている。
- ⑫ 学校は、生活や学習などの相談がある場合に、早期発見・早期解決のための対応がなされている。
- ⑬ 学校は、自分づくりパスポートで学習や生活を振り返ることで、子どもが自分を見つめて次の目標を設定してよりよい生活につなげられるようにしている。

(考察)

昨年度同様、どの項目も「よく・とても」「少し・そう」が90%近い。⑪の挨拶に関しては、月の生活目標にも位置付けるなどして意識して取り組んでいる。人間関係を築く上で基盤となるため、現状に満足することなく、今後も地域、家庭と連携しながら挨拶への取組を継続していく。⑬の自分づくりパスポートは、昨年度まで使用していたステップアップカードと同様、自己の振り返りや目標設定に今後も活用していく。

○特別支援教育

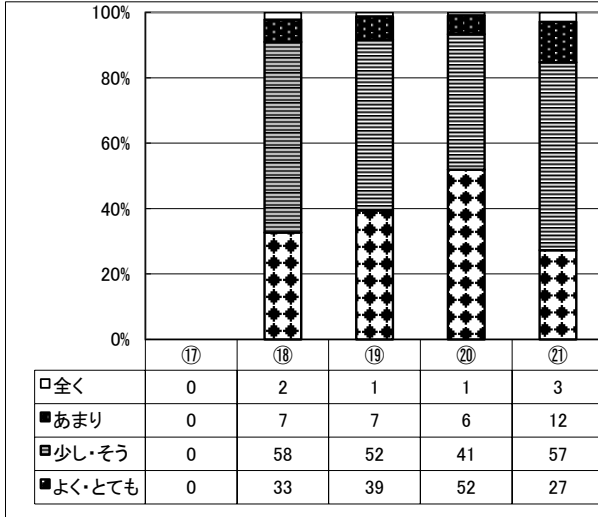


- ⑭ 学校では、備品・掲示物等を整理し、教室の学習環境を整え子どもの育ちに役立てている。
- ⑮ 学校は、だれもが安心して学校生活を送れるように1人ひとりに応じた支援をしている。
- ⑯ 学校は、子どもたちの様々なケースに対して、チームで対応して解決している。

(考察)

⑭は、昨年度同様、「少し・そう」「よく・とても」が90%を超え一定の評価を得ている。今年度は、感染症対策用に備品を増やしたり、教室の環境も整えたりした。⑮も「少し・そう」「よく・とても」が90%を超えた。取り出し授業やT.Tでの授業を行い、個に応じた支援を継続してきた。⑯も「少し・そう」、「よく・とても」が90%近くになった。今年度同様に、今後も特別支援コーディネーターを中心に、様々なケースに対応できる支援の形を充実させていく。また、誰もが安心して学校生活を送れるように、より一層個に応じた支援を心がけていきたい。

○地域連携

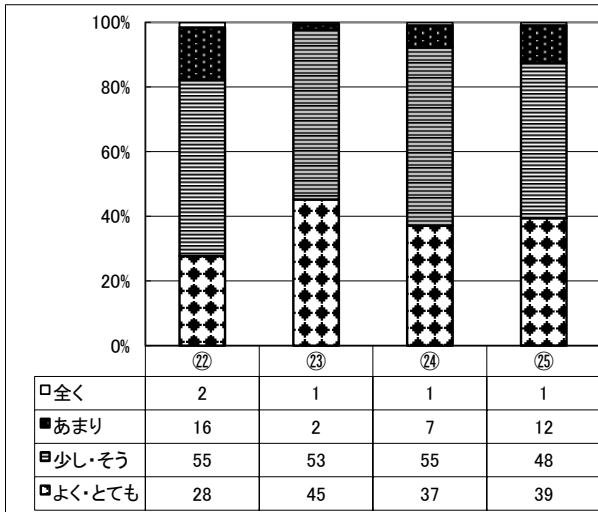


- ⑰ 子どもは、地域の行事(イベントやチルドレンサークル、自治会の行事など)に参加している。
- ⑱ 学校は、保護者や地域の方々に関わりをもって、「開かれた学校運営」になるように取り組んでいる。
- ⑲ 学校は、子どもたちの安全を守るために、地域や保護者との連携を深めている。
- ⑳ 学校は、メール配信等緊急時の連絡システムを確立し、整備を進めている。
- ㉑ 学校は、情報発信を密にし、家庭・地域からの意見を集約し反映している。

(考察)

⑱～㉑については、昨年に引き続き「よく・とても」「少し・そう」が約90%を超えている。今年度は感染症拡大の中ということもあり、学校行事の精選や地域行事への参加が難しい部分も多くあった。しかし今後は例年同様、授業の一環で地域との関わりを多くもちながら、学校・家庭・地域が連携を深めていきたいと考える。また、その連携を大切にしながら家庭や地域への働きかけを工夫し、「ふるさと丸山台を愛する」児童の育成に取り組んでいきたい。

○キャリア教育

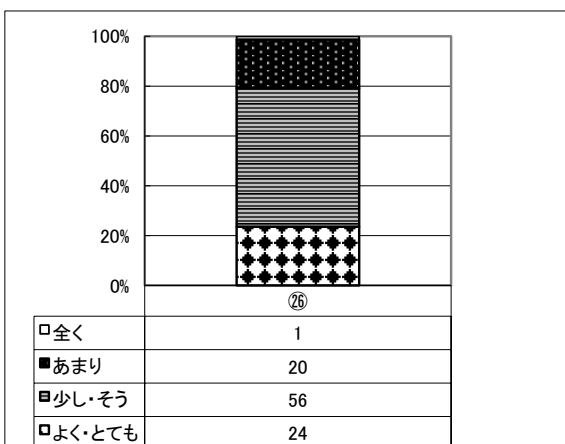


- ㉒ 子どもは、様々なキャリアをもつ人々から学んで、知識理解を深めている。
- ㉓ 学校は、学年の発達に応じた「『食』の学び」を通して、健やかな体と豊かな心を育てている。
- ㉔ 学校は、子どもが住むまちの良さや伝統を感じられるようにしている。
- ㉕ 子どもは、異学年の子どもたちと進んでコミュニケーションをとろうとしている。

(考察)

全ての項目において、「よく・とても」が去年に比べて減っている。㉓の「『食』の学び」については、発達段階を考慮して、引き続き健やかな体と豊かな心を育てていきたい。㉕の異学年交流については、「よく・とても」が13ポイント減り、「あまり」が8ポイント増えている。これは、感染症拡大の影響もありたてわり活動や小中連携があまりできなかったからと考えられる。このような情勢でも、工夫しながら児童が進んで他学年の子どもたちともコミュニケーションをとれるような活動を大切にしていきたい。

○いじめへの対応



- 学校は、いじめ基本方針に則り、定期的にアンケート(学校生活について、いじめについて)を実施するなどして、いじめの早期発見・早期対応に努めている。

(考察)

昨年度同様、「よく・とても」「少し・そう」が80%となっている。一方で、「全く・あまり」が昨年度との比較で6ポイント増えている。いじめをなくすためには、アンケートからの把握だけでなく、日常の児童の様子をしっかりと見取り、いじめにつながるような言動を発見したら、その場でしっかりと指導していかなければならないと考える。得た情報には迅速に対応し、未然防止、早期発見に努める必要がある。人と人との適切な距離感(パーソナルスペース)の指導も引き続き学校全体で取り組んでいき、今後も「いじめゼロ」をめざして教職員一丸となって取り組んでいく。